

【別紙】

第3回 日韓大学生討論会

開催日時：8月21日（月）15時～22日（月）12時30分

開催場所：ソウル国際青少年センター中会議室
国会議員会館（ソウル）小会議室

テーマ：『共にする青年文化を創るための日韓青年の役割』

サブテーマ：

1) 「ひとり」から「共」にする青少年文化

- ー現在、韓国と日本の青年が共有している「一人」文化が発生した社会的原因と問題点を理解して、対応策を考える。
- ー「一人」文化の拡大による人間の共同体的な営みが破壊されることによる国家と社会の未来、そして健全な青年文化を創るための両国青年の協力と役割について考える。

2) 社会の構成員としての青年の結婚と出産

- ー現在、日韓両国の青年の間で拡大されている独身主義と少子化文化に対して、青年の認識を確認し、肯定的な考え方への変化を導くための方法を語り合う。
- ー人間のイニシエーション（通過儀礼）の一つであるとされた結婚と出産が持つ意味と重要性について共有し、社会の構成員として彼らが持つ国家的、文化的意味を考える機会を提供する。

趣旨：1) 一人メシ、一人酒、一人遊び、一人映画…。さらには一人旅行まで。

「おひとりさま」ライフスタイルを楽しむ日韓両国の若者が日々増えている。

2016年に韓国の青年男女を対象に行われたアンケートでは、成人4人中3人が自分を「シングル族に近い」と答えた。

- 2) 一方、「ひとり」で生きていく一人家族もますます増えている。2016年、韓国の統計局のデータによると、韓国の一人家族の割合は2015年現在27.2%で4世帯中一世帯が「一人家族」である。2035年には、34.3%で3世帯中の1世帯に増える見込みである。一人家族の増加は、世界的な流れとなっている。福祉制度が発達した北欧のスウェーデン(47%)とノルウェー(40%)は、既に一人家族が40%を超え、日本も31.4%と高い水準である。

- 3) しかし、一見して「派手なシングル族」を想起させる韓国と日本の一人家族の人生を見ると、むしろ多人数家族と比較して経済的基盤が脆弱で精神的貧困

の状態である場合が多い。

- 4) このように、日韓両国の青年の間で拡大している「おひとりさま」文化は、再び一人家族（シングル）と少子化現象につながり、深刻な社会的、国家的問題の原因になっている。したがって、日韓両国の青年に「共生する社会」という共同体的価値観に対する認識を回復させるための努力も必要ではないかと思われる。

- 目 的：・超高度産業社会が生んだ消極的青年文化の拡大を止めるための、日韓両国の民間団体間の共同協力を進める。
- ・日韓両国の青年に、社会構成員としての青年の責任と義務に対する正しい認識を持てるように機会を提供する。
 - ・日韓両国の未来を導く青年の健全な文化の形成と拡大に貢献する。

参加者：100名 日韓両国大学生 60名（日本人25名、韓国人35名）
日韓 IC 関係者および韓国国会議員及び各界指導者 40名

主 催：MRA/IC 韓国本部

協 力：公益社団法人 国際 IC 日本協会

後 援：韓国青少年団体協議会

【 スケジュール 】

8月21日（月）（第1日）

ソウル金浦空港に到着

15:00-16:30 出合いの時間（親交活動、自己紹介）

（於：ソウル国際青少年センター中会議室）

16:30-19:00 グループに分かれての討論

19:00-20:00 夕食

20:00-21:00 各グループからの発表

21:00-22:00 共同宣言文の検討

（国際青少年センター泊）（*1）

8月22日（火）（第2日）

08:00-09:00 朝食（国際青少年センター食堂）

09:00 国会議員会館に向け出発

10:00-10:30 開会式（於：国会議員会館小会議室）

- リ・ジュヨン (李 柱榮) MRA/IC 国会議員連帯代表 (自由韓国党議員、
元海運水産部(省)長官)、女性家族部(省)長官等より激励のスピーチなど
- 10:30-11:00 基調講演：共にする青年文化を創るための日韓青年の役割
※講師は調整中
- 11:00-11:40 サブテーマ1 についての韓国の学生代表による発表と日本人学生代表による
討論、および、サブテーマ2 についての日本の学生代表による発表と韓
国人学生代表による討論
- 11:40-12:20 発表者と参席者間の意見交換
- 12:20-12:30 共同宣言文の発表
- 12:30-13:30 昼食 (国会議員会館食堂)

17:00 より AW コンベンションセンターにて

第14回東北アジア(日中韓)青年フォーラムのスタート

以上